学校と家庭の望ましい連携の工夫
－家庭訪問と新しい保護者会、学級通信の活用を通して－

生徒指導・教育相談班　須永　努（中学校教諭）

研究の概要

本研究は、学校と家庭との望ましい連携を目指した実践研究である。保護者の学校に対する要望や家庭環境をよりよく把握するためのカードを使って家庭訪問を行う。それに基づいて保護者・子ども同士が共に学び合い、成長し合える参加型の「新しい保護者会」を親と子に実施し、親子でそれぞれの思いや考えを共有した。さらに学級通信を使いその思いや考えを発信し、その感想や考えを返信してもらう。学校と家庭の双方向でのやりとりを通し、親と子と学校の良好な関係を築いた。

実践内容

学校と家庭の望ましい連携

双方向の学級通信
学校・担任の理解
連携の強化

親. 子どもの感想/思い

新しい保護者会プログラム

【親】親のニーズに答える子育て学習プログラムを行い、子どもとの接し方を考える
STEP1　教員が行った劇を見て、理想の家族像を考える
STEP2　理想の家族に近づくために、子どもとかかわる時に大事にしたいことを教員と一緒に考え、『６つの秘訣』として２学年全クラスの家庭へ配布

【子】親と同じプログラムを行い、親の思い、考えを知り、親との接し方を考える
STEP1　教員が行った劇を見て、理想の家族像を考える
STEP2　理想の家族に近づくために、親とかかわる時に大事にしたいことをクラスごとに考え、学年全体で『６つの秘訣』として２学年全クラスの家庭へ配布

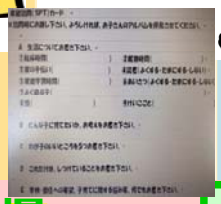
プログラム選定

感想／思い

「たくさんの保護者とかかわりがもて、子どもへの接し方を、保護者同士で考え、学ぶことができた。子どもと接するときは子どもの話に耳を傾け、コミュニケーションを大切にしたい」
子どもへの接し方が変わった
→全体の58％（保護者アンケートより）

良好な関係

「親も、子どもには素直でいてほしいとわかり、そんな子どもになりたい。家族との時間を大切にし、コミュニケーションを深めたい」
親の気持ちがわかった→全体の89％
親への接し方が変わった→全体の63％
（子どもへのアンケートより）



ＳＰＴカードを使った実態把握

【ねらい】①最初の顔合わせである家庭訪問で、学校と家庭の信頼関係を築く
②学校に対する要望の把握　③家庭環境のよりよい把握
≪内容≫「わが子のいいところ５つ」「どんな子に育てたいか」など

ＳＰＴカードとは　新しい保護者会のテーマにつなげていくカード。学校が家庭をサポート（Support）するという意味があり、また、生徒（Students）と親（Parents）、そして教師（Teacher）が一体となっていきたいという願いを込めて命名したものである

授業参観や保護者会への参加率低いな

学校　←　学校と家庭の連携の希薄化　→　**家庭**

子どもにどう接したらいいの？

子どもの自己肯定感の低下
素直で熱心に取り組む生徒

実態

子育てに関する不安
しつけに対する不安
親子関係の希薄化

成果と課題

SPTカードを使った家庭訪問により、担任と保護者の情報交換がしっかりできた。親の思いを引き出すために有効であり、新しい保護者会のプログラム作成に役立った。新しい保護者会では、親は子どもへの接し方を親同士で、子どもは親への接し方を子ども同士で学び合った。保護者は学校に関心をもち、積極的にかかわりをもってくれるようになり子どもは親の思いを知り、感謝の気持ちをもって、素直に接するようになった。また、保護者会のことを学級通信を使い発信をしたことで、さらに親子の接し方も変わり、子どもの話に耳を傾けるようになり、親子の会話も増えた。

今後は、様々な保護者の考え・思いについて、学年間や全職員で情報交換を密にし、話合いを行い、同じ意識で家庭のニーズに合った対応をしていくことが、さらなる学校と家庭の連携へとつながると考える。